



『CROWN English Series [II]』

もがきの日々発

—きわめて地味な実践例

茨城県立並木高等学校 外山 徹

1. はじめに

昨年春、現在校に転勤し、第二学年の担任となった。生徒指導も忙しい。学習指導も大変だ。やることは山積している。空き時間も教材研究に割けるわけではない。自宅で教材研究をしようすると、学校の疲れが出て眠くなる。

しかし、『Teacher's Manual ④ 授業案集』が助けとなる。その基本的な流れ「導入」→「展開」→「まとめ」の中での筆者の地味な実践のいくつかを述べる。題材は、主としてLesson 8 Zero LandminesのSection 1&2である。

2. 実践例 Lesson 8 Zero Landmines

2.1 <導入>

(a) Section 1—CDジャケットを利用する

ZERO LANDMINEのCDを購入した。ジャケットには教科書の写真の他にさらに9個の地雷が載せられているので、画像をスキャナーで取り込む。教科書を閉じさせ、取り込んだ画像をプロジェクターを介して教室のスクリーンに映し出す。生徒たちに、“What do you think they are?”と問いかけ、推測させる。生徒たちは多様な形をした様々な地雷があることに驚く。

(b) Section 2—動画を見せる

インターネットのYouTube（ユーチューブ）のウェブサイトを利用する（<http://www.youtube.com/browse>）。YouTubeは、無料の動画の共有サービスをしているアメリカの企業名である。そこで「zero landmine」で検索すると、坂本龍一らの4分58秒のZERO LANDMINE演奏の様子が見られる。それをプロジェクターを通してスクリーンに映し出し、生徒に見せる。映像によって生徒に強い印象を与えられる。

(c) いずれかのSection—地雷の模型に触れさせる

「情報」担当の同僚が、教科書に掲載されているような地雷の模型と、火薬抜きの本物の地雷を知人から借りてくれた。教室で生徒たちは実際に地雷を手にとって触れることができた。地雷の問題に対する意識がさらに高まった。

2.2 <展開>

(a) すべてのSection

—フレーズ・リーディングをさせる

ハンドアウトの作成には、『Teacher's Manual ⑦ 指導用CD-ROM』を用いると、時間も労力も削減できる。英文を取り出し、手作業でスラッシュ（斜線）を入れ、英文の下に少し小さめのポイントの文字で必要に応じて日本語や英語での説明を入れる。フレーズ・リーディング用のハンドアウトは、いわば補助輪付きの自転車である。日本語が補助として入っていても、生徒には英文を読んでわかる楽しさを味わってほしい。英語の得意な生徒には、このハンドアウトを使用せずに自力で読むように促せばよい。

さらに、読んでわかる楽しみの他に、フレーズ・リーディングを通して、英語の語順を身につけさせたい。きちんとした日本語に直すことを主眼にするのではなく、できるだけ英文を左から右に読み下して理解する習慣を形成したい。語順が身につけば、読む、書く、話す、聞くの領域でも役立つはずである。

(b) すべてのSection

—文と文の結びつきに気づかせる

フレーズ・リーディングでは1文1文の意味を理解するだけで、文と文がお互いにつながっているという視点を忘れがちである。文と文はつながっている。同じハンドアウトを利用して、

「地雷」を表す単語を囲ませる (p.22 図1)。囲む作業を通して、同じ単語が多少、形を変えたり、代名詞になって繰り返されていることに気づくだろう。変形しながら繰り返されている landmines がキーワードであることが視覚的にわかる。同意表現 (図1の.....や.....)、a very long time の具体化が 50 years、maybe even a century (図1の.....) であることにも気づかせたい。また、(So) Large numbers of people must help (to clear that many mines). の省略も考えさせたい。

(c) すべてのSection—情報を図解させる

百聞は一見に如かず。図解させることで、読み取った情報が整理され、理解が深まる。簡単な図解で十分である。生徒のレベルに応じて英語でまとめさせ、英語で言わせたり、日本語でまとめたものを英語で言わせることもできる。

●地雷についてまとめてみよう。

推定数	70ヶ国以上に (1億2千万)
埋まっている場所	大部分は (地面の下)
危険性	踏むと (爆発) ; (無差別)
作動期間	長期間 : (50年) から (100年)
除去活動開始時期	(1990年代)
必要なこと	(多くの人が協力し合うこと)

(d) すべてのSection—消去音読をさせる

ワープロソフトを用い、フレーズ・リーディングのハンドアウトから日本語の部分のカットし、消去したい語を選択した後、文字色を白に設定して囲む。それをプロジェクターを通してスクリーンに映す。生徒たちはスクリーンを見て、消去された語を補いながら、まず全体で音読する。列ごと、個人ごとに音読させてもよい。教師が重要だと思う単語を消去すると、音読にも変化が出て新鮮である。スラッシュごとに音読する。

Redglare: Landmines! There may be / as many as 120 million of these terrible [] / in over 70 countries / throughout the []. Most of these mines / are under the ground / and will [] / when they are [] on. (略)

2.3 <まとめ>

(a) Section2—歌詞の穴埋めをさせる

ZERO LANDMINEのCDを聞き、空所に歌詞を書きとらせる。

ZERO LANDMINE

This is my 1(home)
 The land of my 2(mother)
 The place I 3(play)
 With sisters and 4(brothers)
 The trees are rooted
 in the 5(ground) beneath
 Take away the 6(violence)
 Give the earth back its 7(peace)

(b) Section 2—与えられた単語を用いて英語で要約を書かせる

【まとめ】あるいは【週末課題】とする。要約を英語で書かせ、発表させる。書かせるときのヒントとして、いくつかの単語を示しておく。

要約の際にヒントとなる単語を示す場合、フリーウェアの簡易コーパスを利用すると参考になる。

◆KWIC Concordance for Windows 4.7

(http://www.chs.nihon-u.ac.jp/eng_dpt/tukamoto/kwic.html)

◆PSS Concordancer Ver.1.0.1

(<http://www.takke.jp/pss/concordancer.html>)

単語の使用頻度は、その文章の内容と深く関わっている。指導用CD-ROMから分析したい箇所の英文をテキストファイルで取り込めば、単語の出現頻度を一瞬で教えてくれる。

たとえば、Section 2の単語の出現頻度をKWICで分析し、3回、2回のもを挙げると次のようになる (ただし、前置詞、接続詞、冠詞、代名詞、be動詞は除いてある)。

3 回	landmine / Sakamoto
2 回	arm / Chris / had / interested / leg / problem / run / Ryuichi

しかし、頻度がたとえ1回であっても新情報を提供する内容的に重要度の高い単語であったり、頻度の高い単語の言い換え、同意表現である場合には十分に注意しなければならない。分析結

果を教師がよく吟味することが必要となる。

Section 2の内容を80字以内の英語で要約しなさい。以下の注意に従うこと。

<注意>

1. 下に与えられた語をすべて用いること。
用いる順序は問わない。
[run / landmine / interested / artificial / TV / Sakamoto / Olympic / Chris / CD]
2. 短縮語は1語と数える。
3. ピリオドやカンマは1語に数えない。
4. 語数を必ず記入すること。

【解答例】 Sakamoto Ryuichi made a CD called Zero Landmine to help get money for removing landmines. He became interested in the landmine problem when he watched

Chris Moon on TV. Although he lost his arm and leg from a landmine explosion, Chris never gave up living. Finally he was able to run a full marathon with an artificial leg and became the torchbearer for the Winter Olympic Games in Nagano in 1998. (71 words)

3. おわりに

フレーズ・リーディングと図解を核にしながら、新しい課に入るたびに、もがき苦しみつつ、何ができるかを考え、試してきた。その割には地味な実践ばかりであるし、うまくいかなかったものも多々ある。たとえ地味ではあっても、自らも学ぶことをしごとく続ける、反省的な教師でありたい。

今年も忙しさの中で、再び、授業に対するもがきの日々が始まった。

図1

Lesson 8 Zero Landmines

<vocabulary>

landmine Rockets Redglare explode mine elephant remain active agency

American TV talk-show host / Rockets Redglare / is talking with Japanese musician /
司会者

Sakamoto Ryuichi, / who has made a CD Zero Landmine.
= and he

1

Redglare: Landmines! There may be / as many as 120 million of these terrible weapons /
120,000,000 恐ろしい武器

in over 70 countries / throughout the world. Most of these mines / are under the ground /
~中

and will explode / when they are stepped on. But mines cannot see or hear. They
= burst with a loud noise 爆発する 踏まれる

cannot tell a soldier / from a child, / a grandmother, / a cow, / or an elephant. When
= distinguish 区別する

anything touches them, / they will explode. They remain active / for a very long time, /
作動し続ける

50 years, / maybe even a century.
= a hundred years

The movement / to remove landmines / is said to have started / in the 1990s. Mine-
活動 = get rid of ~したと言われている 1990年代に

clearing operations / have begun, / but no single government or agency / can possibly
= removing = movement たった一つの政府や機関では とても~できない

clear that many mines. Large numbers of people must help.
= so = A lot of